

平成20年度「小中高 夢のかけ橋推進事業」実施報告書

東京都立武蔵村山高等学校
全日制課程

1 計画の概要

本校は、近年「地域に根ざし地域から信頼される学校づくり」を推進してきた。今年はさらに「地域を支え地域に貢献する学校づくり」を目指し、地域との連携・交流を深める実践・取組を行った。学校経営計画においても「奉仕体験活動・社会体験活動を充実させ、社会に貢献する生徒の育成」と「地域の小中学校との交流・連携を深め、地域に根ざした学校づくりの推進」を目標に掲げており、「夢のかけ橋推進事業」は、これらの目標を推進する取組である。今年度、本校は次のような取組・実践を行った。

- 1 カリキュラム(授業)における保育所、小・中学校及び特別支援学校との交流
- 2 地域小・中学校合同行事への参加、地域などのボランティア活動への部活動などでの参加
- 3 「トライ&チャレンジ キャンペーン」の実施
- 4 訪問授業及び小・中学校の学校行事への参加 など

2 実施内容

- 1 小学校との交流 特別授業(武蔵村山市立第八小学校の「八小講座」)への補助教員としての参加、小学生社会科見学
- 2 保育所、福祉保育所、療育病院での実習授業(各々年2回)、特別支援学校への訪問(年2回)
- 3 近隣小・中学校との合同音楽会
- 4 部活動生徒の小学校行事、地域教育への参加
- 5 部活動同士の交流
- 6 教員による出前授業、学校行事(学校説明会など)への参加
- 7 地域教育協議会への参加(地域の幼稚園・保育所、小・中学校関係者、及び地域住民の方々と構成)



「みんなの音楽会」

3 成果と課題等

【成果】

- 1 体験学習を行うことで生徒の規範意識の向上が見られた。また、保育園児、小・中学生との交流は、活動を通して生徒の進路の動機付けにもなった。
- 2 合同演奏会、小学校行事への参加は、地域の高校生としての自覚を芽生えさせた。
- 3 中学生と一緒に練習することで、その後の部活動に自覚をもって参加するようになった。
- 4 地域の教育活動への参加は、生徒の育成に地域の人たちからの協力を得られるとともに、生徒たちに地域との交流の大切さを理解させることができた。



小学校と交流(「フレッチャタイム」)

【課題】

- 1 交流の活動時間帯において、小・中学生、高校生各々の体調管理、けが対策など、安全管理面においては、万全の注意と事前の指導が必要である。
- 2 連携先との調整、綿密な打合せが必要である。
- 3 地域の学校として、地域から協力・情報を得るためにも、近隣小・中学校との協力体制をさらに発展させることが課題である。